

令和5年度第1回山陽小野田市公立大学法人評価委員会議事要旨

- 1 日 時 令和5年8月1日(火曜日) 14:00～15:21
- 2 場 所 山陽小野田市立山口東京理科大学 1号館 2階 大会議室
- 3 出席者 委 員 堤委員、濱口委員、藤本委員
事務局 大谷大学推進室長、大坪大学推進室主査、尼崎主任
公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学
池北理事長、望月副理事長、佐々木事務局長、栗田事務局
学務部長、吉村事務局総務部次長、御手洗事務局総務部総
務課長補佐

—開会—

4 議 事

- (1) 委嘱状交付
- (2) 委員長及び委員長の職務を代理する委員の選任
委員の互選により堤委員が委員長に、委員長の指名により濱口委員が
委員長の職務を代理する委員に選任された。
- (3) 評価委員会の役割及び令和5年度のスケジュール（予定）について
委員全員が再任されたことから事務局からの提案により省略された。
- (4) 議題(1)「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の業
務実績評価実施要領」の改正について
令和4年度からスタートした第2期中期目標・中期計画に対応するた
め字句の修正を行う改正案について事務局より提案があり、委員全員の
賛成により承認された。(資料1・2、参考資料8・9)
- (5) 法人理事長及び副理事長あいさつ
- (6) 議題(2) 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学 令和4年度

業務実績報告書 第7期事業年度について

業務実績報告書（7月5日付け事務局送付資料）について法人より説明を受けた後、質疑等が行われた。

主なものとしては、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の履修率について、98%～6%と学科ごとに大きなばらつきがあり、中でも工学部応用化学科が特に低くなっているが何か理由があるか、との質問に対し、応用化学科については、必修科目の中に数理・データサイエンスに関する科目がほとんどないことが要因と考えられることから、カリキュラムの見直しや令和5年度に新たに設置した数理情報科学科の科目を学科横断的に展開すること等により履修率を高めていきたい、との回答や、地域課題の解決に貢献するため研究活動を行う「地域課題解決研究事業」の研究成果発表会の後の展開について何か考えがあるか、との質問に対し、事業における課題の採択期間は1年間だが、さらなる発展の可能性のあるものについて、企業との連携等によりその後も継続して取り組まれているものがある、との回答、大学開放デーにおける「産学連携コーナー」の参加者数について、時間帯によっては少ない時があったと認識しており、一概に参加者数だけで計ることはできないとは考えるが、どのように捉えているか、との質問に対し、当該コーナーについて、令和4年度は大学開放デーにあわせて開催し、会場が分かりにくかった等の反省点はあったものの内容としては良いものであったと考えていることから、今後は得られた反省点を改善しながら訴求力を高めていきたい、との回答、教員採用について、女性限定及び優先公募により採用された2名の女性教員の配属先は共通教育センター及び工学部応用化学科とのことであり、工学部の残りの3学科については現在女性教員がいないと認識しているが、今後どのようにしていきたいと考えているか、との質問に対し、令和5年度に実施した女性限定公募の結果、機械工学科において女性教員1名が採用内定している状況であり、今後も女性教員数の増加に向けて継続的に取り組んでいきたい、との回答、多目的文化施設は地域の方との交流の場となる多目的会議室などが整備されているとのことだが、実際に地域の方は利用されているのか、との質問に対し、利用いただける体制は整えているが現在申込みはない状況である、との回答があった。

また、委員からは、科学研究費助成事業（科研費）の申請書の推敲支援

について、支援を受けた教員の採択率が高かったのであれば、その点を学内にアピールし、支援希望者の増加を図った方がよいと思われる、との意見や、公的研究費の不正使用を未然に防ぐための取組みの一環として行われている研究倫理教育 e ラーニングによる研究倫理教育の受講状況の確認方法について、受講者からのチェックリストの提出により行われているとのことだが、受講修了後に発行される修了証書の実物を確認するようにした方がよいと考える、との意見があった。

—法人退席—

(7) 委員意見交換

評価書の作成について、次回までに事務局にて案を作成し、それをもとに審議を行うこととなった。

(8) その他

事務局より、評価書（事務局案）の作成に当たり、次回会議までに業務実績報告書中の「項目別業務実績」についてあらかじめ委員が評価を行ったものを集約したい旨連絡があった。

—閉会—